

緑化センター みにがいど No.29

日本画のモデル ジョウビタキ

ジョウビタキの雄は頭が灰色，胸は栗色，背中が黒く，翼によく目立つ白い紋がついています。この鳥は里の小鳥で，山際から畑地のような広い開けた所に棲み，見通しの良い小高い杭や枝に止まって静止しています。姿勢を立てて地上を見つめる姿は静かな冬の風景にぴったりで，そのプロポーションの良さと配色の美しさから日本画の画材としてよく取り上げられています。



緑化センターにも雌雄のジョウビタキが棲み付いています。樹木が程よく配置され，地上の雑草や落ち葉がまとめられているこの環境が小鳥たちには理想的ともいえます。

ジョウビタキ ヒタキ科

ジョウビタキは冬鳥としてカモ類と同じ頃から渡来する野鳥で，緑化センターには10月下旬には姿を見せます。

スズメほどの大きさで，胸を張り，直立姿勢で静止する。人家の近くに居付いて畑の小虫やピラカンサ，ヌルデ，ヤブムラサキなどの木の実を採食する。硬い種子は口から吐き戻すので，移動先で発芽し新しい木が育つことに役立っている。

お辞儀をするかのように体を前に折って「ヒッ，ヒッ」鳴く声が，昔使われていた「火吹き竹」の音に似ていることから，「いつも火を焚いている」→「常火焚」→「ジョウビタキ」の名となったという。又，羽の白い紋から「紋付鳥」として親しまれている。

テリトリーを絶えず巡回して同類の鳥が来ると執拗に追いまわしてテリトリーを守る。

文と写真 吉見良一氏

コーヒーで一息入れませんか
緑化センター レストハウス